

図解！

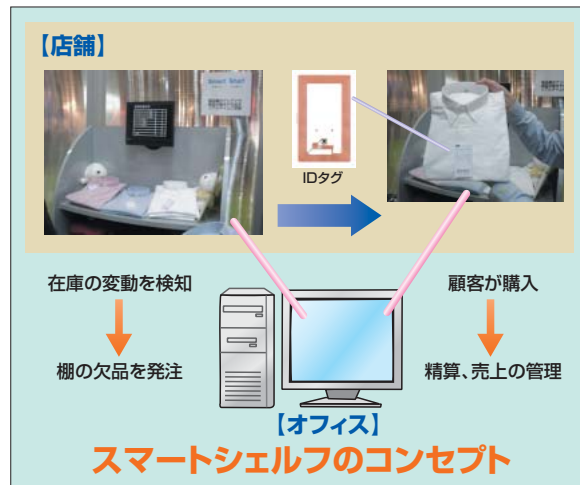
# IT時代の 常識ことば

## IDタグ

(アイディータグ)

最近、「IDタグ」という言葉をよく耳にするようになった。バーコードの進化形として語られることが多いIDタグだが、実はまったく違った新たなインフラ基盤だといえる。IDタグを用いることで業務プロセスに真に革命を起こせる。極論すれば、

見てみる。まず、工場の生産段階でIDタグを取りつけ、それぞれの製品に固有のIDを与える。そのほか、製品の生産時期などの付加情報を加え出荷する。次の物流の過程では、複数のIDタグを一括して認識できる利点が活かされ、例えばダンボール箱



ほとんどのビジネスで不可欠だった物品の管理——検品、発注、棚卸しなどの仕事をすべて肩代わりできる“夢のシステム”を構築できるのだ。物流管理をシステム化するSCM(サプライチェーンマネジメント)を例にとって具体的な利用イメージを

に詰めた製品を箱を開けずに検品できるのだ。店舗に届いた製品は、IDタグのリーダーライターを内蔵したスマートシェルフ(棚)に配置する。スマートシェルフでは定期的に電波を発信することによって製品の在庫を管理し、基幹システムのデータベ

スとリアルタイムで連携できる。棚に製品を補充すれば在庫増、顧客が棚から持ち出せば在庫減となり、人手を介さず自動的に発注するというシステムも実現する。もちろん、POSシステムの一環として、従来のバーコードに代わり精算、売上計上にも利用できる。IDタグの情報は書き換え可能なので、精算済みの情報を新たに加えれば出口のゲートで万引き防止システムとしても使える。流通システム一つをとっても、IDタグの導入でこれだけの機能を実現できる。さらに流通分野だけに限らず、チケットや真贋確認、退社管理、アミューズメントをはじめ、あらゆる業種・業態で利用が可能なのである。

### ■短距離無線を活用

IDタグを支えているのが、「RF-ID」と呼ばれる短距離無線技術だ。バーコードに比べ、①離れた場所から認識できる、②複数のタグを同時に認識できる、③タグに記載された内容を書き換えてできる、④風雨、汚れに強いという利点を持っている。タグはICチップ部とアンテナ部で構成される。電源は内蔵電池か電波を受信する際に電磁誘導を起こし電

力を供給する方式がある。

形状は十数cmの円盤型から、円筒形、カード型、フィルム型など多様で、0.3mm角のチップに糸のようなアンテナを取り付けた極めて小さなもので存在する。単価は現在、数十円だが将来的には数円にまで低下することが期待されている。利用電波帯はISOで定められた13.56MHzや2.4GHzなどが一般的。

IDタグを用いて物品を管理するためにはそれぞれ固有の番号を与える必要がある。そこで、バーコードのように国際的に利用できる番号体系を整える動きが最近目立ってきた。代表的なものが米国のマサチューセッツ工科大学が中心になって進めている「オートIDセンター」と東京大学坂村健教授のT-エンジンフォーラムを母体とする「ユビキタスIDセンター」だ。

すでに流通分野での適用に向けて、家電業界、出版業界などで共通の枠組み、システム作りを目指した業界団体が立ちあがり適用の手法を摸索している。

誰もが当たり前IDタグを利用する日もそう遠くはなさそう。